

図書だより

平成 30 年 6 月 9 日 第 02 号
シンガポール日本語補習授業校

課題図書が届きました！

第 64 回青少年読書感想文全国コンクールの課題図書本が図書室に入りました。貸出は、来週 6 月 9 日（土）からです。

今年もおもしろそうな本が選ばれています。ぜひ、読書感想文を書いてコンクールに参加してください。



小学校低学年向け



「ルラルさんのだいぐしごと」
いとうひろし著

ルラルさんのだいぐしごとのうでまえは、なかなかのものです。やねのしゅうりだって、おてのもの。ところが、おもわぬことがおきてしまい……!?



「きみ、なにがすき？」
はせがわさとみ著

森のおくにすむあなぐまが、にわのはたけでともだちのすきなものを作りたいと思いつきます。でもともだちは、あなぐまの考えるものをもっていました。きもちが空まわりしてしまったあなぐまは、いったいなにを作るのでしょうか……!? だれかにわかってもらえることがうれしくなるお話。



「なずずこのっぺ？」
カーソン・エリス著

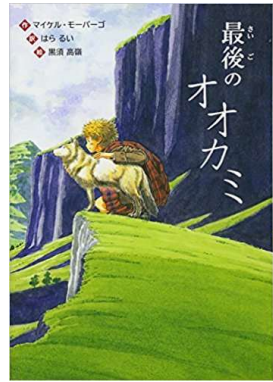
「なずず このっぺ?」といちばんベシクな昆虫語の問いかけからストーリーは始まります。虫たちのおしゃべり昆虫語のえほん。2017 年コルデコット賞オナーブック。



「がっこうだっどきどきしてる」
アダム・レックス著

はじめてのクラス、はじめての学校、みんなどきどきするものだけど……学校だっどきどきしてるって知っていた?

小学校中学年向け



「レイナが島にやってきました」 「森のおくから:むかし、カナダであつたほんとうのはなし」

長崎 夏海著

始業式にちこくして、ガジュマルの木の上で歌っていた転校生はケイヤク子どもなんだって…!?長崎夏海がえがく風と光と子どもたち。南の島で新しい生活をはじめたレイナと島の子どもたちのすてきな出会い。

レベッカ・ボンド著

これは、いまから100年ほど前に、カナダでほんとうにあった話です。アントニオは、深い森にかこまれた、みずうみのほとりにすんでいました。動物をさがして、ある夏、おそろしい山火事がおきました。にげる場所は、ただひとつ—みずうみです。人間も、動物も、必死に生きのびようとしたそのとき、アントニオの目の前で、思いもよらないことがおこったのです…。

「最後のオオカミ」

マイケル・モーパーゴ著

孫娘からパソコンの使い方を教わったマイケル・マクロードは、インターネットで自分の家系を調べることにした。やがて遠い親戚からメールが届き、ひいひいひいひいひいおじいさんのロビー・マクロードがのこしたという遺言書を見せてもらう。それは「最後のオオカミ」と題された回想録で、むごい戦争の時代を、ともに孤児として生きぬいた少年とオオカミの物語だった。小学中級から。

「すごいね！みんなの通学路」

ローズマリー・マカーニー著

みんなどうやって学校に通っているの？世界のさまざまな場所にくらす子どもたちの通学風景をみてください。



「奮闘するたすく」
まはら 三桃著



「こんぴら狗」
今井 恭子著



「ぼくとベルさん」
フィリップ・ロイ著



「クニマスは生きていた」
池田 まき子著

最近、佑のおじいちゃんの様子がおかしい。近所で道に迷ったかのように歩いていたり、やかんをコンロにかけっぱなしにしてボヤ騒ぎを起こしたり…。「行きたくない」としぶるおじいちゃんをなだめすかして、佑はデイサービス(通所介護)に連れていくことになった。しかも、佑が逆らうことのできない早田先生は、そこで見たこと、聞いたことをレポートして夏休みの自由研究として提出しなさいって…。友だちの一平と“ケアハウスこもれば”に通うことになった佑は、お年寄りと接しながら、介護される人と介護する人、それぞれの気持ちに気づいていく。坪田譲治文学賞受賞

江戸時代、伊勢参りや金毘羅参りは庶民の憧れ。でも自分はなかなか旅には出られないから、代わりに飼っている犬にお参りに行かせる。そんな、今では信じられないユニークな風習がありました。中でも讃岐の金毘羅まで、代理でお参りにいく犬のことを「こんぴら狗」といいます。

「みんなにはできて、ぼくにはできない……」読み書きが苦手な少年、エディ。電話の発明家、ベル氏との出会いが、彼の人生を大きく変えていき……。

奇跡の魚・クニマスが私たちに問いかける「命のつながり」とは…。最後のクニマス漁師だった三浦久兵衛さんと、久さん親子の姿を通して描いた、感動の物語。

著者紹介

まはら 三桃

1966年、福岡県北九州市生まれ。2005年、「オールドモーブな夜だから」で第46回講談社児童文学新人賞佳作に入選し、翌年、『カラフルな闇』と改題して刊行。2011年から2013年に渡り「おとうさんの手」が読書感想画中央コンクール指定図書に選定され、「鉄のしぶきがはねる」が第27回坪田譲治文学賞を受賞及び第4回JBBY賞を受賞した。

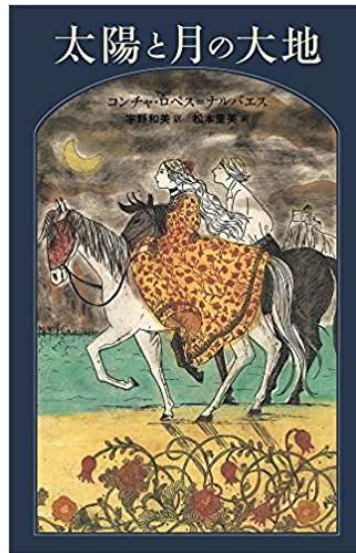
長崎 夏海

1986年、「A day」でデビュー。2000年「トゥインクル」で第40回日本児童文学者協会賞受賞。2015年「クリオネのしっぽ」で第30回坪田譲治文学賞を受賞。



「一〇五度」
佐藤 まどか著

都内の中高一貫校に、編入した真は中学 3 年生。スラックスをはいた女子梨々と出会い、極秘で「全国学生チェアデザインコンペ」に挑戦することに…！中学生としては前代未聞の、この勝負の行方は？椅子デザイナーをめざす少年の、熱い夏の物語。



「太陽と月の大地」
コンチャ・ロベス＝ナルバエス著

16 世紀スペイン。キリスト教徒の伯爵令嬢マリアと、伯爵家に長年仕え友情を育んできたイスラム教徒の家に生まれた少年エルナンド。ふたりの間には恋が芽生えるが、やがて両家の人々は異なる宗教・民族間の対立に巻き込まれていく。宗教や民族の違いによって引き裂かれ、運命に翻弄される人々を描いた歴史小説。



「千年の田んぼ」
石井 里津子著

秘境の離島に日本最古の田んぼ?いったい誰が?なんのために?大地に刻まれた“奇跡の風景”の謎を解く。

著者紹介

佐藤 まどか

イタリアでプロダクトデザイナーとして活躍する一方、『水色の足ひれ』(第 22 回ニッサン童話と絵本のグランプリ大賞受賞・BL 出版)で作家デビュー。イタリア在住。